

例 言

1. 本書は、日本郵便輸送株式会社の事務所建設に伴う宮原町遺跡^{みやはらまち いせき}2の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 本業務は日本郵便輸送株式会社（代表取締役社長 本庄吉幸）から委託されたスナガ環境測設株式会社（代表取締役 須永眞弘）が実施した。
3. 監督指導 高崎市教育委員会 矢島 浩
4. 遺跡名 宮原町遺跡（業務名 宮原町遺跡2 遺跡番号662）
遺跡所在地 群馬県高崎市宮原町2番11
調査面積 650㎡
5. 発掘調査期間 平成27年11月16日～平成28年1月15日
整理作業期間 平成28年1月15日～平成28年4月18日
6. 本調査で得られた遺物やデジタル画像データ・モノクロ35mmネガフィルム・リバーサルフィルム・測量データ（SFCファイル）・実測図・報告書PDFファイル等の記録は高崎市教育委員会が保管する。
7. 調査は調査計画を須永眞弘（測量士第52614号）、調査指揮を金子正人、発掘担当を瀧澤典雄、調査補助員を山口慶太・石原 功、測量を山口慶太・瀧澤典雄・細井美佐子・佐藤弦汰・新井益子・大和太輝、重機オペレーターを武井知可・松井直人・榎原孝宏、事務を須永 豊が担当し、空撮は駒スカイサーベイに委託した。
8. 整理はデータ整理・図面整合・写真整理等を山口慶太、内業事務を須永 豊が担当した。
9. 本書はⅠを矢島 浩（高崎市教育委員会）、Ⅱ・Ⅲ-2～Ⅴを瀧澤典雄、Ⅲ-1を山口慶太が執筆し、それ以外の作図表・版組は瀧澤典雄・山口慶太が行い、校正を須永眞弘・金子正人が担当した。
10. 費・器材搬入・出は長澤俊男・小林隆一・大浜利幸、遺構掘削作業は石原 功・山口淳太郎・秋間直人・竹内利夫・高橋幸児・伊藤 晃が行った。
11. 本書作成に当たり多くの文献を参考にさせていただき、一部をⅤの参考文献に挙げた。

凡 例

1. 座標値は世界測地系を使用し、北方位は座標北であり、標高は海拔標高である。
2. 挿図の縮尺は原則として以下のとおりである。
全体図……1/400 平面図（水田跡・復旧坑・土坑・ピット・溝跡）……1/100 断面図……1/100
3. 本書中で略称として、水田跡……SN、土坑……SK、ピット……SP、溝跡……SDを使用した。
4. 土層注記の土色名は『新版標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修 財団法人日本色彩研究所 色票監修）2000年に依った。
5. 本書中で数値に〔 〕を付したものは検出値を、（ ）を付したものは推定値を表す。
6. 本書中でテフラの略称は天明3年（西暦1783年）降下の浅間火山給源テフラをAs-A、天仁元年（西暦1108年）降下の浅間火山給源テフラをAs-B、6世紀初頭降下の榛名火山給源テフラをHr-FAとした。
7. 写真図版キャプションの（方位）は遺構に対する撮影位置を表す。
8. 挿図の第3図は国土地理院発行地形図「高崎」1/25000（平成22年）を、第9図は高崎市発行都市計画図1/2500（平成27年）を使用し、それ以外の使用は図中に明示した。
下の写真は高崎市発行『新編高崎市史』資料編2原始古代Ⅱ 2000年の513p写真3（昭和30年代撮影）を改変して使用した。



目次

例言・凡例	1
目次	ii
挿図目次	ii
表目次	ii
写真図版目次	ii
I 調査に至る経緯	2
II 調査の方針と経過	2
1 発掘調査の方針	2
2 発掘調査の経過	2
3 整理作業の経過	2
III 遺跡の環境	3
1 地理的様相	3
2 歴史的様相	4
IV 検出された遺構	6
1 層序	6
2 1区	6
3 2区	8
4 3区	10
V 総括	12
写真図版	
報告書抄録	

挿図目次

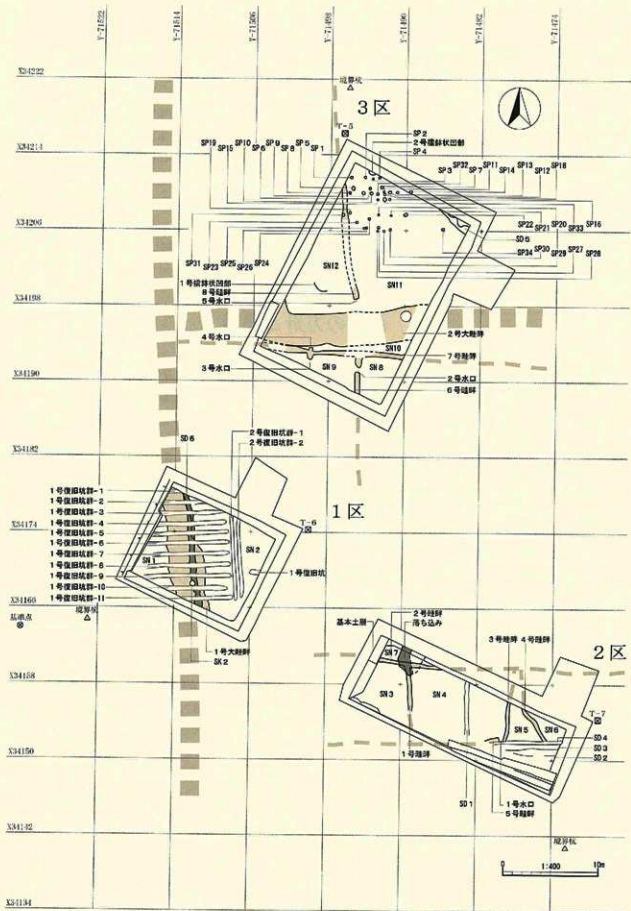
第1図 遺跡全体図	1	第5図 1区実測図	7
第2図 高崎市主要部地形分類図	3	第6図 2区実測図	9
第3図 周辺遺跡分布図	5	第7図 3区実測図(1)	10
第4図 基本土層	6	第8図 3区実測図(2)	11
		第9図 条里復原試算図	14

表目次

第1表 1区復旧坑計測表	6	第3表 3区清跡計測表	10
第2表 2区清跡計測表	8	第4表 3区ビット計測表	10
		第5表 3区掘鉢状凹部計測表	10

写真図版目次

写真図版1 遺構：調査区俯瞰 調査区俯瞰	写真図版4 遺構：3区 3区全景
写真図版2 遺構：1区 1区全景 1区全景 2号土坑全景 6号清跡全景 1号大畦畔斯ち割り・6号清跡断面	3区から宮原町遺跡調査区を俯瞰 2号大畦畔全景 ビット列群全景 1号掘鉢状凹部全景
写真図版3 遺構：2区 2区全景 2区全景 2区全景 落ち込み検出位置の水田面 落ち込み全景	写真図版5 遺構：3区断面 3区東壁断面 3区東壁断面 3区東壁断面 3区東壁断面 2号大畦畔斯ち割り断面 4号水口斯ち割り断面 2号水口斯ち割り断面 1号掘鉢状凹部断面



第1图 遺跡全体图

I 調査に至る経緯

平成27年9月日本郵便輸送株式会社から、高崎市宮原町において計画している事務所建設に先立つ埋蔵文化財の照会が市教育委員会文化財保護課（以下、市教委と略）にあった。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地である下之城村東遺跡に隣接し、工事に際しては協議が必要である旨を回答した。開発計画が具体化した同年9月10日には、市教委へ埋蔵文化財試掘（確認）調査依頼書と文化財保護法に基づく届出が提出され、同年10月7日に試掘（確認）調査を実施した。その結果、平安時代末の浅間山噴火に伴う火山灰の堆積層に覆われた水田遺構を検出、埋蔵文化財の所在が明らかになった。この結果をもとに開発者と市教委で協議したが、現状保存は困難との結論に達し、発掘調査による記録保存の措置を講ずることで合意した。なお遺跡名については「宮原町遺跡2」とした。

発掘調査は「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要項」に準じ、平成27年11月9日に日本郵便輸送株式会社とスナガ環境測設株式会社との間で契約を締結、また同日に日本郵便輸送株式会社・スナガ環境測設株式会社・市教委での三者協定も締結し、調査の実施にあたって市教委が指導・監督をすることとなった。

II 調査の方針と経過

1 発掘調査の方針 [第1回 写真版1]

日本郵便輸送株式会社の給油所・洗車場・本館の建設予定地3か所に設定された調査区を南から1（給油所）・2（洗車場）・3（本館）区と付番し、重機の退路・排土の都合から、掘削の順番は1区より調査することにした。表土は重機で掘削し、排土はクローラーで運搬して排土置き場へ集積し、鉄道への飛散防止のために防炎ネットで被覆することにした。

表土は調査区各辺の2m外側から掘り込み、1mの幅と深さで法面を作り、その内側に1m幅で遺構面より30cm程度深く水抜き溝を垂直に掘削し、湧水をポンプで排水するようにした。表土掘削は最初に重機で埋土を、次にAs-Bテフラ面まで2段階の掘削を行い、As-Bテフラは鋤簾により除去して遺構確認の後、移植コテによる精査を行うことにした。

遺構精査の進捗に合わせて土層断面の撮影・実測・注記の後、完掘させ、調査区毎に全景や個別の撮影を、モノクロ35mmネガフィルム・リバーサルフィルム・デジタル画像で行うこととした。平面実測は基本的にトータルステーションで行い、断面図と詳細図は人力で実測することにした。畦畔の構造等を把握するために必要に応じてサブトレンチを設定して断ち割り調査を行うことにした。

2 発掘調査の経過 [第1回 写真版1]

11月16日、現場事務所を設置し、調査区範囲の杭を打ち、ベンチマークは「宮原町遺跡」調査区内に測設された87.10mのベンチマークを利用した。17日、重機により1区の表土掘削を始め、19日からは2区を掘削し、続けて鋤簾による遺構確認、移植コテによる遺構精査を順次行い、現場の乾燥・劣化・硬化を防ぐためブルーシートで被覆した上で、28日より1・2区の断面図・平面図作成を並行して行った。12月3日からは3区を掘削し、鋤簾による遺構確認、移植コテによる遺構精査や断面図・平面図作成を行い、9日に全区の空掘をした。10日より畦畔等の構造を把握するためサブトレンチを掘削して断ち割り調査を行い、断面に落ち込み等が見られた部分の補足調査を28日～翌年1月7日まで行い（ただし30日～1月3日は作業を中止し巡回のみ行った。）、8日に施工主・市教育委員会監督員・弊社発掘担当者が立ち会って調査の完了を確認し、9日から埋め戻し、資・器材の搬出作業を開始し15日に終了した。

3 整理作業の経過

1月15日以降は記録類の整理やデータリスト作成・図面整合・写真整理を行った。2月以降はトレースや図版作成・作表・原稿作成も並行して行った。2月25日には入稿し、納品の準備も合わせて行い、校正を3校まで行って3月18日に校了させ、24日に印刷発行させた。

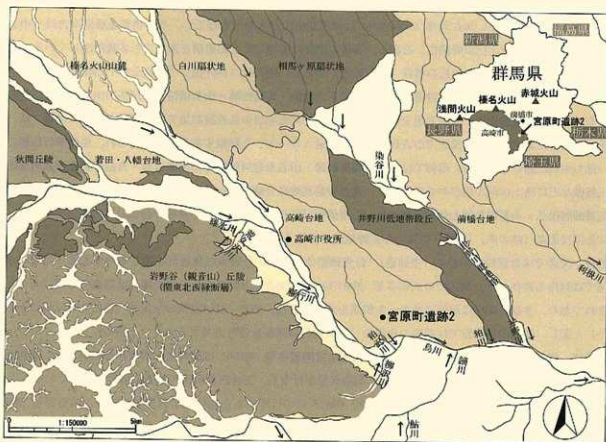
Ⅲ 遺跡の環境

1 地理的様相—倉賀野周辺の地形を中心に—〔第2図〕

高崎市は関東地方の北西部に位置し、面積は459.16km²で、群馬県全体の約13.9%を占めており、人口は約37万人を数える。本市に隣接する市町村は、東から時計廻りに、前橋市、玉村町、埼玉県上里町、藤岡市、甘楽町、富岡市、安中市、長野県軽井沢町、長野原町、東吾妻町、渋川市、榛東村である。

本市は関東平野から北西の山地にかけて位置するため変化に富んだ地形をしており、山麓・丘陵・扇状地・台地・段丘・谷底平野・氾濫原などを見ることができる。本市に広がる台地は、高崎・前橋台地と呼ばれている。約2.4万年前、浅間火山の噴火に伴う山体崩落を原因としてできた前橋泥流層を基層にして、その上から軽石を含んだ粘土質の高崎泥流層が堆積したことで、この台地が形成された。現在では、井野川・利根川・広瀬川等の河川の貫入により、鳥川から井野川にかけての範囲を高崎台地とし、井野川の左岸を前橋台地としている。また6世紀ごろの榛名火山ニッ岳付近の噴火活動による降下物・泥流・火砕流、そして天仁元年の浅間火山の噴火による多量の降灰が地形形成に影響している。本来、高崎台地には後背湿地や微高地が入り組み、低湿地は水田化され、微高地は集落等に利用されていたが、近代以降に地域の大規模な市街化、広範囲にわたる圃場整備、住宅、工業団地造成といった開発が行われたため、現在では比較的平坦化している。

本遺跡はこの高崎台地南端部の後背湿地に位置しており標高は88mである。周辺の地形として、本遺跡から見て東には、南流する井野川に沿って井野川低地帯が発達し前橋台地が続いている。南には、東流する鳥川の対岸に岩野谷（観音山）丘陵（関東平野北西縁断層）やその縁部が展開し、西には、南流する鳥川の対岸に若田・八幡台地があつて平野との境をなし、そして北には、井野川の対岸に前橋台地が続き、さらにその北には榛名火山の一枚、相馬山が約1.7万年前に山体崩壊して形成された相馬ヶ原扇状地が広がる。



【新編高崎市】通史編1 原始古代 2003 図4 を一部変更トレースして使用

第2図 高崎市主要部地形分類図

2 歴史的様相 [第3圖]

旧石器時代 高崎台地の形成時期を扶むため調査例はないが、岩鼻町で尖頭器が採取されている。

縄文時代 倉賀野万福寺Ⅱ遺跡で中期、下佐野遺跡Ⅱで前期から中・後期の遺構を、舟橋遺跡で前期の遺物を、高崎情報団地Ⅱ遺跡で後期の遺構を検出したが山麓の遺跡に比べて小規模である。

弥生時代 竜見町遺跡は中期竜見町式土器の様式遺跡であるが、竜見町式は近年長野県の粟林式と同一様式に理解されてきている。高崎競馬場遺跡・高岡塚村遺跡・高崎情報団地Ⅰ遺跡は中期から後期、下之城堤遺跡・万相寺遺跡・日高遺跡(地外)は後期の遺跡で、日高遺跡では集落跡・墓域・水田跡が検出された。

古墳時代 前期の烏川流域では下佐野茶臼山古墳・下佐野大山古墳・倉賀野万福寺遺跡・下佐野遺跡、井野川流域では柴崎壺沢古墳・元島名将軍塚古墳・鈴ノ宮遺跡などに前期古墳や方形周溝墓が検出され、前期末からは浅間山古墳・大鶴巻古墳・小鶴巻古墳が作られ、西毛地域を掌握する首長層の存在が示唆される。中期から後期の井野川流域に岩鼻二子山古墳・普賢寺裏古墳・綿貫不動山古墳・綿貫観音山古墳・前山古墳などの首長墓が点在し、烏川流域には群集墳の山名古墳群・倉賀野東古墳群・下佐野古墳群などが分布し、御堂塚古墳からは七鈴鏡が出土した。終末期では烏川右岸(旧・多胡郡域)に山上古墳・山上西古墳・小暮穴薬師横穴墓などが分布し、群馬郡の北部には律令期の各郡比定地域毎に1~2基の葦石積石室墳を認める例が多いが、南部では対照的に少なく、倉賀野に横口式石槨墳の安楽寺古墳が挙げられる。

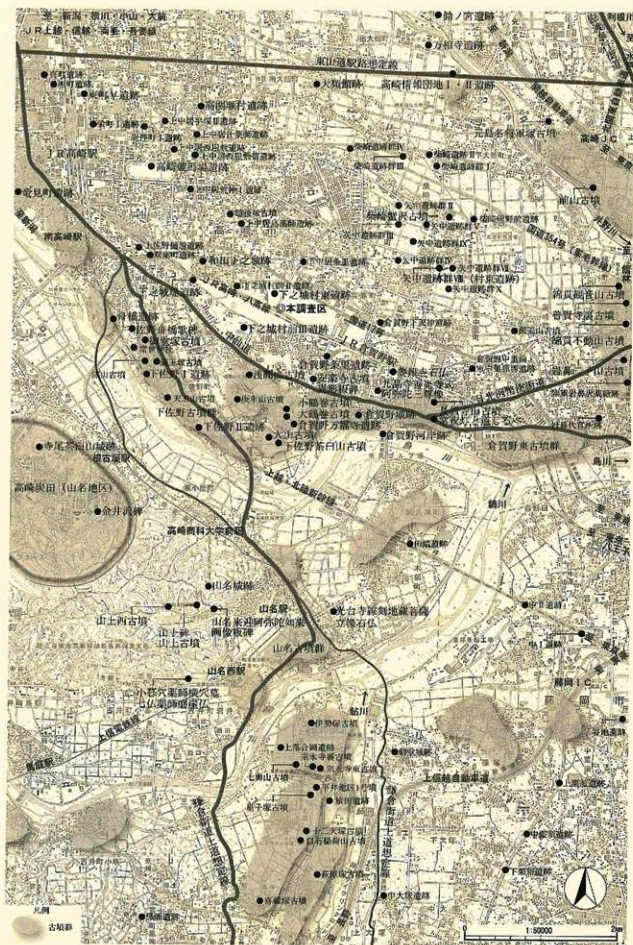
古代 氏族では世界記憶遺産国内候補上野三碑を構成する金井沢碑・山上碑の「三家」碑文から文献にないミヤケの存在や矢中村東遺跡出土の「物部私印」、金井沢碑の「物部君」碑文、頭椎大刀出土数と氏族を関連させる意見などから物部氏の存在が示唆される。交通では古代東西交通の大動脈である8世紀前半までの東山道 routeの一部が高崎情報団地Ⅰ遺跡で確認された。文化では「万葉集東歌」に詠まれる「佐野の舟橋」は佐野地区に比定され歌碑が建っている。災害では弘仁9年(西暦818年)に上野国に大地震が起り当時の地割れ痕が検出される遺跡もある。天仁元年(西暦1108年)には浅間火山が大噴火を起こし、その模様を藤原宗忠は『中右記』に「国内田岳依之已以降滅亡」と記し、多量の降灰に埋没した水田遺構を市内でも多数検出している。

中世 武士では関東管領上杉氏の被官「倉賀野氏」があり、他には「高井氏」・「綿貫氏」・「大類氏」・「山名氏」などが挙げられる。城館跡では倉賀野城跡・和田下之城跡・大類館跡・山名城跡・寺尾茶臼山城跡などが分布する。交通では鎌倉街道上道が主要交通路であるが、他にも中世の仏教説話集である『神道集』には森 浩一氏が提唱した東京湾から群馬までの古代交通路「関東Aルート」と類似するルートが見られ、佐渡奉行街道の一部も中世に遡るとされる。信仰では安楽寺異形板碑・山名米迦阿彌陀如来画像板碑・九品寺善光寺式阿彌陀三尊像などに浄土信仰の広がりを取次ぎ、光台寺線刻地蔵菩薩立像石仏や古墳墓主体部転用の安楽寺古墳七仏薬師磨崖仏・小暮穴薬師七仏薬師磨崖仏、石室構築材利用の可能性のある養報寺石仏伝五智如来像がある。文化では能楽「鉢の木」「舟橋」の舞台が佐野地区に設定されている。

近世 交通では倉賀野宿が近く「中仙道」「日光例幣使街道」の分岐点に常夜灯と道しるべがある。烏川の水運では河岸も存在した。災害では天明3年(西暦1783年)に浅間火山が噴火し、その爆音は京都でも聞こえたとされており、多量の降灰は前年に始まった飢饉を悪化させた。羽鳥一紅は高崎の状況を「箱にもり又俄にもしつ」と記し、前橋藩の記録では前橋の状況を「砂降候而御陣屋近辺町方共二五六寸」とある。

近現代 明治5年(西暦1872年)操業の世界文化遺産富岡製糸場(地外)は高崎炭田の亜炭を燃料とし、新町屑糸紡績所(地外)には明治11年(西暦1878年)明治天皇が行幸し、五姓田義松作の絵画が御物となっている。

日本鉄道会社(現JR)は明治17年(西暦1884年)明治天皇の行幸のもと高崎駅の開業式を行い、明治27年(西暦1894年)には倉賀野駅を開業させた。「関東と信越つなぐ高崎市」と上毛かるたに詠まれる高崎はその後、上越・北陸新幹線、JR高崎・八高・上越・信越・両毛・吾妻線、上信電鉄線、関越・上信越・北関東自動車道、国道17・18・354(東毛幹線)号など交通網の整備により要衝であり続けている。



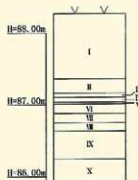
第3図 周辺遺跡分布図

IV 検出された遺構

1 層序 [第4図]

本遺跡の層序は以下のようになる。

- I 埋土層 (工業団地造成時・工場閉鎖時)
- II 近世から近代の耕作土層 (工業団地造成前)
- III 灰白褐色砂層 (As-A テフラ)
- IV 中・近世耕作土層 表土掘削面 (重機)
- V 黄褐色砂層 (As-B テフラ)
- VI 黒褐色砂層 (As-B テフラ) 遺構調査面 (人力)
- VII 褐灰色土層 (As-B テフラ下水田土壌)
- VIII 褐色土層 (As-B テフラ下水田酸化鉄分凝集土層)
- IX 黒色土層 (部分的に存在)
- X 棕色砂層 断面割り調査面 (人力)



第4図 基本土層

2 1区 [第1表 第5図 写真図版2]

1 水田跡 (大陸畔)

位置X34165～X34177. Y-71503～Y-71519 検出面As-Bテフラ下。耕作土基本土層VII 水田面の状況西側はL字型擁壁設置により、南側は鉄道引込み線建設により破壊され、田面には近世の復旧坑がサク状に掘られている。残存した田面には耕作痕や株痕・足跡等と思われる凹凸が全面に分布していた。

《1号大陸畔》畦畔の状況畦畔上面は凹凸が少なく硬化しているが、東側にやや歪れている。地山が微高地状の高まりとなっており、その地山を幅〔60〕cm掘り残して構築する。走向 N-10°-W 規模長さ〔12.37〕m、下幅〔2.31〕～〔3.86〕m。水口検出できない。遺物検出できない。時期天仁元年(西暦1108年)以前。

2 溝跡

《6号溝跡》位置X34165～X34178. Y-71510～Y-71513 検出面断面割り調査で落ち込みが見られた。基本土層VII下。覆土地山の土を主体とする。走向 N-7°-W 断面形状「V」字状。規模長さ〔11.85〕m、上幅〔41〕～〔75〕cm、深さ〔10〕～〔27〕cm。遺物検出できない。時期古代。As-Bテフラ下水田跡より古い。

3 土坑

《2号土坑》位置X34268. Y-71512 検出面As-Bテフラ下水田跡1号大陸畔の上。覆土基本土層VI 形状平面は楕円で断面は浅い皿状。規模長径〔61〕cm、短径〔53〕cm、深さ〔19〕cm。遺物検出できない。時期天仁元年(西暦1108年)以前。

4 復旧坑

検出面As-Bテフラ下水田跡の田面を掘り込み復旧坑群を2群と単体の復旧坑を1条検出した。覆土1号復旧坑は基本土層IIIの集積。その他は粘質の褐灰色土。遺物検出できない。位置・規模・断面形状・走向・時期第1表にまとめる。

第1表 1区復旧坑計測表

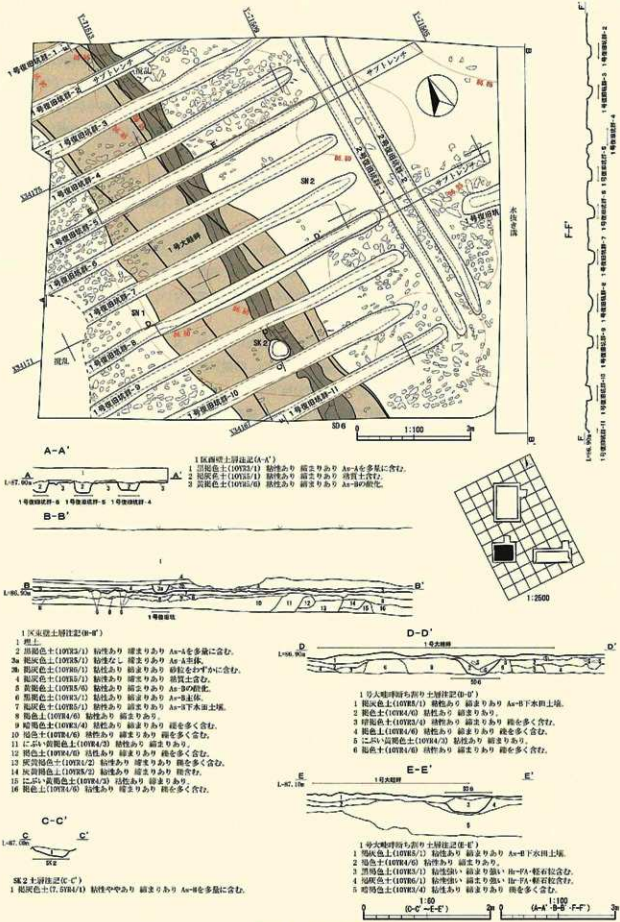
遺構番号	位置	長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(m)	断面形状	規模(m)	走向	時期
1号復旧坑群-1	X34178 Y-71163～Y-71164	(3.97)	34～40	18～27	14～20	「U」字状	76～82	N 88°-E	近世
1号復旧坑群-2	X34178～34179 Y-71165～71165	(4.25)	33～47	22～30	11～16	逆形状	66～77	N 88°-E	近世
1号復旧坑群-3	X34178～34178 Y-71168～71168	(6.87)	30～80	19～31	13～17	「U」字状	63～77	N 87°-E	近世
1号復旧坑群-4	X34174～34178 Y-71169～71169	(7.22)	44～46	27～32	14～13	「U」字状	52～64	N 87°-E	近世
1号復旧坑群-5	X34178～34178 Y-71168～71168	(8.67)	37～46	18～24	12～19	「U」字状	58～67	N 87°-E	近世
1号復旧坑群-6	X34178～34178 Y-71168～71168	(8.66)	35～40	18～24	11～16	「U」字状	72～80	N 88°-E	近世
1号復旧坑群-7	X34171 Y-71169～71169	(8.04)	33～46	12～26	11～20	「U」字状	77～81	N 87°-E	近世
1号復旧坑群-8	X34170 Y-71168～71168	(8.75)	39～53	15～24	16～19	「U」字状	69～78	N 88°-E	近世
1号復旧坑群-9	X34168～34168 Y-71169～71169	(8.18)	34～43	18～26	10～16	「U」字状	80～97	N 88°-E	近世
1号復旧坑群-10	X34178～34178 Y-71168～71168	(6.88)	42～58	22～42	8～15	「U」字状	67～66	N 88°-E	近世
1号復旧坑群-11	X34166～34168 Y-71169～71169	(8.06)	37～44	22～31	6～13	皿状	—	N 87°-E	近世
2号復旧坑群-1	X34166～34175 Y-71169～71169	(8.66)	32～34	19～22	12～14	「U」字状	32～40	N 87°-E	近世
2号復旧坑群-2	X34167～34175 Y-71168～71168	(8.30)	29～35	13～27	4～9	皿状	—	N 87°-E	近世
1号復旧坑	X34165 Y-71164～71166	(1.93)	47～54	20～25	4	半月状	—	N 87°-E	近世

() は検出値、() は積定値



遺構調査風景

1号塚南段1-1 1号塚南段1-2 1号塚南段1-3 1号塚南段1-4 1号塚南段1-5 1号塚南段1-6 1号塚南段1-7 1号塚南段1-8 1号塚南段1-9 1号塚南段1-10 1号塚南段1-11
 1号塚南段1-12 1号塚南段1-13 1号塚南段1-14 1号塚南段1-15 1号塚南段1-16 1号塚南段1-17 1号塚南段1-18 1号塚南段1-19 1号塚南段1-20 1号塚南段1-21 1号塚南段1-22 1号塚南段1-23 1号塚南段1-24 1号塚南段1-25 1号塚南段1-26 1号塚南段1-27 1号塚南段1-28 1号塚南段1-29 1号塚南段1-30 1号塚南段1-31 1号塚南段1-32 1号塚南段1-33 1号塚南段1-34 1号塚南段1-35 1号塚南段1-36 1号塚南段1-37 1号塚南段1-38 1号塚南段1-39 1号塚南段1-40 1号塚南段1-41 1号塚南段1-42 1号塚南段1-43 1号塚南段1-44 1号塚南段1-45 1号塚南段1-46 1号塚南段1-47 1号塚南段1-48 1号塚南段1-49 1号塚南段1-50 1号塚南段1-51 1号塚南段1-52 1号塚南段1-53 1号塚南段1-54 1号塚南段1-55 1号塚南段1-56 1号塚南段1-57 1号塚南段1-58 1号塚南段1-59 1号塚南段1-60 1号塚南段1-61 1号塚南段1-62 1号塚南段1-63 1号塚南段1-64 1号塚南段1-65 1号塚南段1-66 1号塚南段1-67 1号塚南段1-68 1号塚南段1-69 1号塚南段1-70 1号塚南段1-71 1号塚南段1-72 1号塚南段1-73 1号塚南段1-74 1号塚南段1-75 1号塚南段1-76 1号塚南段1-77 1号塚南段1-78 1号塚南段1-79 1号塚南段1-80 1号塚南段1-81 1号塚南段1-82 1号塚南段1-83 1号塚南段1-84 1号塚南段1-85 1号塚南段1-86 1号塚南段1-87 1号塚南段1-88 1号塚南段1-89 1号塚南段1-90 1号塚南段1-91 1号塚南段1-92 1号塚南段1-93 1号塚南段1-94 1号塚南段1-95 1号塚南段1-96 1号塚南段1-97 1号塚南段1-98 1号塚南段1-99 1号塚南段1-100



第5図 1区実測図

3 2区 [第2表 第6図 写真図版3]

1 水田跡 (畦畔、水口)

位置 X34152~X34162. Y-71472~Y-71494 検出面 As-B テフラ下。耕作土基本土層Ⅷ 水田面の状況南側は鉄道引込み線建設により破壊されており、コンクリート敷上面の砕石中に大釘(亀釘)が混入していた。残存田面には耕作痕や株痕・足跡等と思われる凹凸が全面に分布していた。遺物須志器大甕細片が1点(外面に叩き板痕、内面に青海波文の当て具痕あり。)あるが細片のため図示できない。時期天仁元年(西暦1108年)以前。

《1号畦畔》畦畔の状況畦畔土壌は水田耕作土と同じで分層できない。走向 N-4°-W 規模長さ(4.82)m、下幅(39)~(45)cm。水口検出できない。遺物検出できない。時期天仁元年(西暦1108年)以前。

《2号畦畔》畦畔の状況畦畔土壌は水田耕作土と同じで分層できない。走向 N-83°-W 規模長さ(6.29)m、下幅(27)~(43)cm。水口検出できない。遺物検出できない。時期天仁元年(西暦1108年)以前。

《3号畦畔》畦畔の状況畦畔土壌は水田耕作土と同じで分層できない。走向 N-7°-E 規模長さ(3.98)m、下幅(26)~(35)cm。水口5号畦畔の間に1号水口がある。遺物検出できない。時期天仁元年(西暦1108年)以前。

《4号畦畔》畦畔の状況畦畔土壌は水田耕作土と同じで分層できない。走向 N-32°-W 規模長さ(4.03)m、下幅(31)~(43)cm。水口検出できない。遺物検出できない。時期天仁元年(西暦1108年)以前。

《5号畦畔》畦畔の状況畦畔土壌は水田耕作土と同じで分層できない。走向 N-78°-E 規模長さ(1.2)m、下幅(36)~(46)cm。水口3号畦畔の間に1号水口がある。遺物検出できない。時期天仁元年(西暦1108年)以前。

2 溝跡

本調査区では4条の溝跡を検出した。いずれも東西・南北の走向を示し、条里地割と並行するが覆土から見ても条里地割に関係すると思われる遺構は3号溝跡のみであり、覆土にAs-A テフラを含むものが1・2・4号溝跡であり3号溝跡は覆土の一部にAs-B テフラを含むものであった。したがって1・2・4号溝跡はAs-B テフラ降下で埋没した後、近世に同位置を再掘削して利用したものと考えられる。3号溝跡に土坑状の落ち込みが確認され半載したが、針金を木材に巻いて礎で抑えた状況が検出され、鉄道のアンカーと判断し調査を打ち切った。検出面基本土層Ⅵ 覆土近世と判断したものはAs-A テフラを含む。古代と判断したものはAs-B テフラを含む。遺物検出できない。位階・規模・断面形状・走向・時期第2表にまとめる。

第2表 2区溝跡計測表

遺構番号	位置	長さ(m)	上幅(cm)	下幅(cm)	深さ(cm)	断面形状	走向	時期
S01	$\begin{matrix} 34152 \sim 34158 \\ Y-71472 \sim 71485 \end{matrix}$	(6.67)	(37~41)	(34~29)	(1~2)	U字	S-0°-E	近世
S02	$\begin{matrix} 34159 \sim 34162 \\ Y-71477 \sim 71478 \end{matrix}$	(4.80)	(35~77)	(3~10)	(4~8)	V字	S-80°-E	近世
S03	$\begin{matrix} 34161 \\ Y-71472 \sim 71473 \end{matrix}$	(6.22)	(40~60)	(15~23)	(5~9)	U字	S-80°-E	古代
S04	$\begin{matrix} 34162 \sim 34165 \\ Y-71472 \sim 71485 \end{matrix}$	(7.30)	(29~39)	(4~10)	(6~24)	U字	S-85°-E	近世

() は検出値。() は推定値



断面実測風景

3 落ち込み

位置 X34158~X34162. Y-71489~Y-71490 検出面 As-B テフラ下水田跡の耕作土下。覆土基本土層Ⅷ層以下。走向 N-5°-E 形状不定形。規模長さ(293)cm、幅(133)cm、深さ(39)cm。遺物検出できない。時期古代以前であるが特定できない。備考1・2号畦畔の構築構造を確認するため、サブトレンチを入れたところ黒色土の落ち込みが見られた。また、地山自体が傾斜して堆積したり、礫を含む部分と含まない部分が混在するなどが観察された。このため自然の可能性が高いと判断し、上端の範囲と断面観察で調査を打ち切った。



第6図 2区実測図

4 3区 [第3~5表 第7・8図 写真版4・5]

1 水田跡 (大畦畔、畦畔、水口)

位置 X34188~X34213. Y-714483~Y-71504 検出面 As-B テラ下。耕作土基本土層Ⅶ 水田面の状況遺物基礎跡の擾乱が激しいが耕作痕等が分布。遺物検出できない。時期天仁元年 (西暦1108年) 以前。

《2号大畦畔》畦畔の状況上面は凹凸が少なく硬化していた。走向 N-88°-E 規模長さ(15.8)m、下幅(312)~(352)cm。水口7号畦畔の間に4号水口、8号畦畔の間に5号水口がある。遺物検出できない。時期天仁元年 (西暦1108年) 以前。

《6号畦畔》畦畔の状況水田耕作土と同じで分層できない。走向 N-6°-E 規模長さ(2.24)m、下幅(50)~(52)cm。水口7号畦畔の間に2号水口がある。遺物検出できない。時期天仁元年 (西暦1108年) 以前。

《7号畦畔》畦畔の状況水田耕作土と同じで分層できない。走向 N-86°-W 規模長さ(12.4)m、下幅(31)~(126)cm。水口2号大畦畔の間に4号水口、6号畦畔の間に2号水口、他に3号水口がある。遺物検出できない。時期天仁元年 (西暦1108年) 以前。

《8号畦畔》畦畔の状況水田耕作土と同じで分層できない。走向 N-7°-W 規模長さ(12.2)m、下幅(39)~(75)cm。水口2号大畦畔の間に5号水口がある。遺物検出できない。時期天仁元年 (西暦1108年) 以前。

2 溝跡

検出面基本土層Ⅶ 位置・規模・断面形状・走向・時期第3表にまとめる。覆土基本土層Ⅴ

3 ビット列群

位置・規模・形状・遺物・時期第4表にまとめる。備考ビットの重複なし。

4 錐鉢状凹部

検出面基本土層Ⅶ 位置・規模・形状・遺物・時期第5表にまとめる。検出面基本土層Ⅴ

第3表 3区溝跡計測表

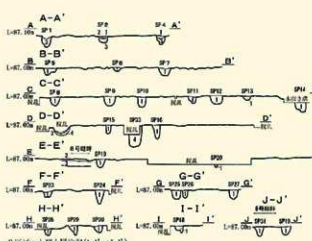
溝跡番号	位置	長さ(m)	上幅(cm)	下幅(cm)	断面形状	遺物	時期
S35	X34205~X34208 Y-71493~Y-71495	(3.23)	29~82	19~32	3~7	不定形	N~O ¹ Ⅴ 古代

第4表 3区ビット計測表

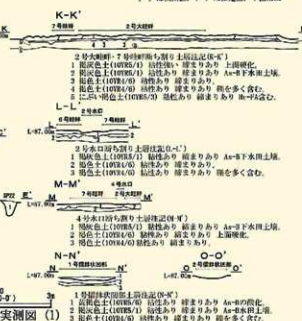
別記号(別記番号)	位置	長さ	傾斜	断面形状	断面形状	遺物	時期
I	SP1 X34211, Y-71495	28	26	28	内凹形	「V」字状	なし 古代
I	SP2 X34211, Y-71494	27	23	17	内凹形	「U」字状	なし 古代
I	SP3 X34211, Y-71495	25	25	24	内凹形	「U」字状	なし 古代
II	SP5 X34216, Y-71496	42	31	18	内凹形	「V」字状	なし 古代
II	SP6 X34216, Y-71495	22	29	19	内凹形	「U」字状	なし 古代
II	SP7 X34216, Y-71492	25	31	22	不定形	蓋物断片	なし 古代
II	SP8 X34209, Y-71495	24	29	19	内凹形	「U」字状	なし 古代
II	SP9 X34209, Y-71494	36	26	24	内凹形	「U」字状	なし 古代
II	SP10 X34209, Y-71493	30	29	27	内凹形	「U」字状	なし 古代
II	SP11 X34219, Y-71492	22	29	18	内凹形	「V」字状	なし 古代
II	SP12 X34210, Y-71491	34	30	24	内凹形	「U」字状	なし 古代
II	SP13 X34216, Y-71496	29	23	16	内凹形	「U」字状	なし 古代
II	SP14 X34216, Y-71499	32	27	(28)	内凹形	「V」字状	なし 古代
IV	SP15 X34209, Y-71492	32	17	24	内凹形	「U」字状	なし 古代
IV	SP16 X34209, Y-71491	31	22	26	内凹形	「U」字状	なし 古代
—	SP18 X34209, Y-71492	26	21	17	増し跡	海生殻	なし 古代
V	SP19 X34207, Y-71495	27	26	23	円錐	「U」字状	なし 古代
V-VI	SP20 X34207, Y-71492	21	20	(7)	円錐	「U」字状	なし 古代
V	SP21 X34207, Y-71491	22	16	19	内凹形	「U」字状	なし 古代
V	SP22 X34207, Y-71490	45	29	18	内凹形	「U」字状	なし 古代
VI	SP23 X34206, Y-71495	29	22	17	円錐	蓋物断片	なし 古代
VI	SP24 X34207, Y-71493	26	24	27	円錐	「V」字状	なし 古代
VI	SP25 X34206, Y-71494	24	22	33	内凹形	「U」字状	なし 古代
VI	SP26 X34206, Y-71494	21	20	20	内凹形	「U」字状	なし 古代
VI	SP27 X34206, Y-71492	27	23	24	円錐	キャップ型鉄釘	なし 古代
VI	SP28 X34205, Y-71492	19	19	18	円錐	「U」字状	なし 古代
VI	SP29 X34205, Y-71492	25	23	26	円錐	「U」字状	なし 古代
VI	SP30 X34206, Y-71491	27	22	17	内凹形	「U」字状	なし 古代
—	SP31 X34207, Y-71496	32	27	26	内凹形	「V」字状	なし 古代
—	SP32 X34209, Y-71493	30	25	29	内凹形	「U」字状	なし 古代
IV	SP33 X34209, Y-71492	42	35	67	内凹形	「U」字状	なし 古代
VI	SP34 X34206, Y-71496	33	28	26	内凹形	「U」字状	なし 古代

第5表 3区錐鉢状凹部計測表

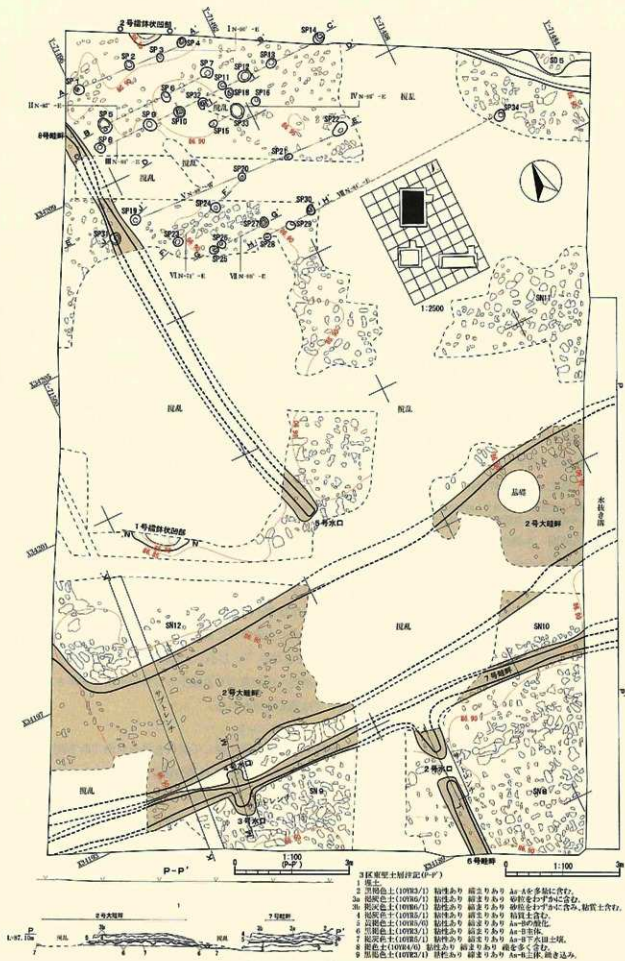
錐鉢状凹部番号	位置	長さ(m)	断面形状	断面形状	遺物	時期
1号錐鉢状凹部	X34211, Y-71495 (180)	(40)	15	内凹形	鉄釘	なし 古代
2号錐鉢状凹部	X34211, Y-71494 (80)	23	17	内凹形	鉄釘	なし 古代



第7図 3区実測図 (1)



第8図 3区実測図 (2)



第8图 3区实测图(2)

V 総括 [第3・5～9図 写真図版1～5]

条里地割の復原(第9図、写真図版1)『下之城村東遺跡』(1983)の図-3(以下83年復原図という)は、本遺跡位置を含む条里復原図である。それによれば1区南西端の西に南北の坪境があり、2区東南の隅に東西坪境が想定復原された。しかし、検出された1区南北の1号大畦畔は83年復原図の近接坪境から19m東に位置し、3区東西の2号大畦畔は51m北に位置しており、83年復原図の想定と異なる復原になる結果となった⁽¹⁾。このことについて周辺遺跡の検出状況や先学の研究からその意味を検討したい。

(1) 宮原町遺跡では本調査(2次調査)と同時期に本調査区北東側を先行調査(1次調査)しており、1次調査区では南北の大畦畔1本と東西の大畦畔2本を検出している。1次調査区南北大畦畔と2次調査区1号大畦畔との距離は心々で114mである。2次調査区2号大畦畔を東に延長した位置の1次調査区で南側の東西大畦畔が検出され、1次調査区北側の東西大畦畔との距離は心々で115mあり、この2調査区の結果は概ね整合している。(スナガタ環境調査2016) また、検出された水田跡は半折型と思われ、横倉興一氏の分類ではBタイプかCタイプになると思われる。(横倉興一 1991)

周辺の条里遺構(第3・9図)本地域の条里地割は109mではなく76mから115mまでばらつきのある地割が指摘されている。周辺遺跡の事例では、東の下阿内老町知遺跡・下阿内前田遺跡から南北大畦畔が10m間隔で並行して確認された。83年復原図の延長上に南の倉賀野村前Ⅲ・倉賀野上新堀Ⅰ遺跡からは4ヶ所の坪境畦畔が、倉賀野条里Ⅲ遺跡からは逆「T」字状の畦畔が確認され、北の中居条里遺跡でも坪境畦畔の位置に畦畔が確認された。北の矢中遺跡群は坪境長が110mより長くなる傾向にあるとされ、宿大類遺跡群から北は条里地割が西偏する傾向にあると指摘される。また、日高遺跡では3時期の条里地割変遷が考えられており、1期目は9世紀で、次の2期目に大畦畔は西へ30m、南へ10m移動し、3期目は11～12世紀で1期目の条里地割より僅かに西へ移動すると理解されている。

本調査区の大畦畔も83年復原図から平行移動した位置にあり、こうした時期的変遷による大畦畔移動が83年復原図の想定と異なる坪境畦畔復原の結果になった可能性があるが新田関係は不明である⁽²⁾。

(2) 宮原町1次調査区では南北大畦畔の20m以上に溝跡と畦畔が並行して確認されている。(スナガタ環境調査2016) また、本調査区5号畦畔や3号溝跡は83年復原図の想定坪境の位置に近い位置にある。

水田跡の時期 本調査区水田跡の下限年代は天仁元年(西暦1108年)である。この12世紀初頭は律令制の衰退や新たな領主層の台頭、未法思想の流布、院政が行われた時期であり中世に含める意見もある。

一方、本地域は7世紀中葉から8世紀に解体・分割されるミヤケが想定され、7世紀末築造の安楽寺古墳の位置は条里地割に近接しており、それらの時系列事象と条里地割が8世紀初めの大宮令に規定される班田制の施行時期や施行過程と合わせて関係があるのか否か、水田跡の上限年代によっては重要な課題となるが、年代決定できる資料を検出できないため暦年代の上限は検討できない⁽³⁾。しかし、本調査区は坪境畦畔の移動の可能性があり形態が半折型と思われ、その半折型から長地型への変遷が9世紀から11世紀の間に編年されることに照らせば、条里地割施行期の終末期段階より前までは遡ると思われる。

(3) 『下之城村東遺跡』(1983)では条里制の施行が9世紀に始まる可能性を指摘している。

畦畔等の構造(第5・7・8図、写真図版2・3・4・5) 畦畔や水口の構築に関して資料を得る目的で断ち割り調査を行ったところ、1区1号大畦畔では並行して6号溝跡が確認できた。6号溝跡覆土の上にAs-Bテフラ下水田跡の耕作土があるため水田跡より古い遺構と見られる⁽⁴⁾。また、1号大畦畔は地山を幅60cm程度掘り残して構築した状況が看取されており、6号溝跡は1号大畦畔構築時の削り込み溝である可能性もある。また1・2号大畦畔の上面は硬化した状態であり作業道等に使用された可能性も示唆される。

(4) 『下之城村東遺跡』(1983)では水田面下検出の溝跡について、5～6世紀代に始期があり、7～8世紀に使用が遡る可能性を指摘している。

水田跡の耕作痕(第5・6・8図、写真図版2・3・4) 本調査区では耕作痕が水田跡全面に見られた。また3区東壁ではAs-Bテフラ下水田跡の耕作土中にAs-Bテフラがダマ状や筋状に存在しており、これは踏み込まれたものと考えられ、As-Bテフラは田面上にも堆積しており、本調査区の耕作痕は噴火活動中の作業痕の可能性もある。

掘鉢状凹部 (第7・8図、写真図版4・5) 3区でAs-Bテフラ下水田跡に2基検出した掘鉢状凹部は面に掘鉢状の窪みとして確認されるもので、土坑の浅いものとして遺構と捉えるべきものか、あるいは単なる水田の窪みとすべきか判断に迷い掘鉢状凹部と仮称したものである。管見では蒼海遺跡群(36)の1区As-Bテフラ下水田跡では2基、京目・不動西遺跡2でもAs-Bテフラ下水田跡に1基検出しており、いずれもAs-Bテフラ下水田跡にAs-Bテフラが多量に堆積する浅い窪みという検出状況が共通している。遺構であることを前提として掘鉢状凹部の性格について検討したが、その性格を特定することはできなかった。ただし「発掘調査のびき」(2013)では水田跡中の土坑に淡水漁労の可能性に言及しており、そうした性格も考慮される。

ピット列群(第4表、第7・8図、写真図版4) 3区でAs-Bテフラ下水田跡の北西に集中して33基のピットを検出したが、多くは東西に列状に並び少なくとも8列は設定可能で概ね並行するが、全体が不明であり、各列の構成基や直交するピットが明確にできず、掘立柱建物跡の可能性は低い。水田跡に伴う遺構では稲架跡が考えられるが、半間隔のものがあることに着目すれば、何らかの建築物・構列等の可能性も否定できない。

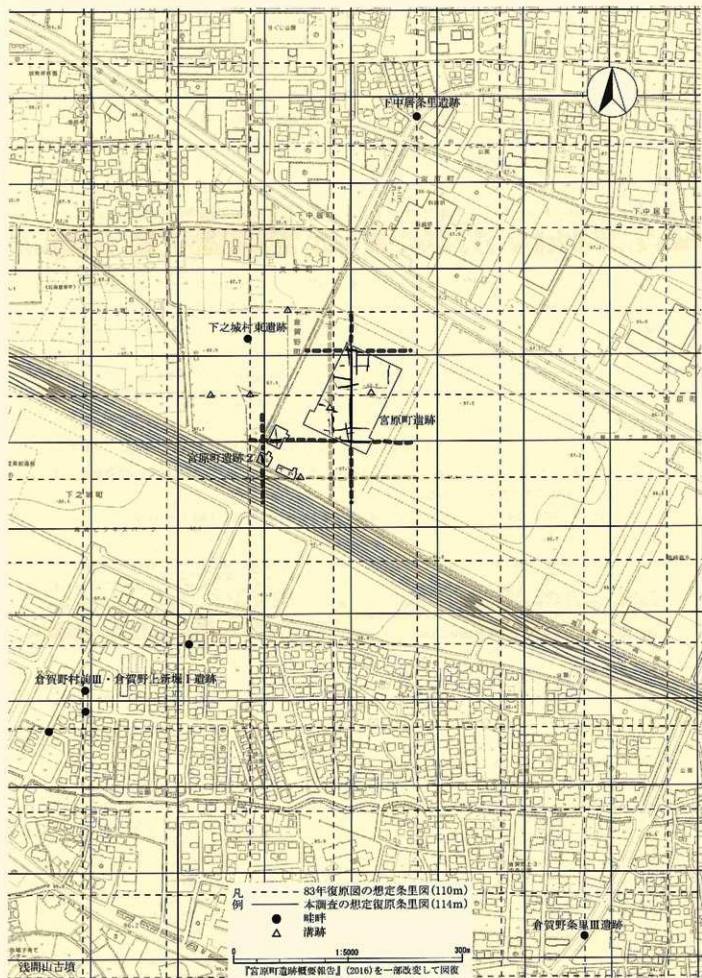
復旧坑など(第1表、第5図、写真図版2・5) 復旧坑は所謂天返しをするために掘られた坑である。1・2号復旧坑群の復旧坑はAs-Bテフラ下水田跡下部の地山まで掘り込み、埋土は粘質の褐色土色である。1条の復旧坑はAs-Aテフラを廃棄し、坑底は僅かに凹面を削る程度で天明3年(西暦1783年)以後の作業痕である。その形状・土質等の差異から1・2号復旧坑群と1号復旧坑とは時期が異なると思われる。「東町V遺跡」(1996)では復旧坑が類型化されており、それに照らせば、1・2号復旧坑群は3類に属すると思われる。

3区区壁には2次的なAs-Aテフラに埋まる畝状のラインが見られた。本地域では火山灰を地中に埋めるのではなく、田畑の隅に集積する廃棄方法をとる例が示されており⁴⁾、木調査区例も灰かき山(砂置き場)のようなものと畝跡の断面を捉えた可能性が高い。

(5)「下之域村前Ⅲ・倉賀野上新堀1遺跡」(2001)において下之域村の地引絵図を元にした「砂置き場」の調査が行われている。

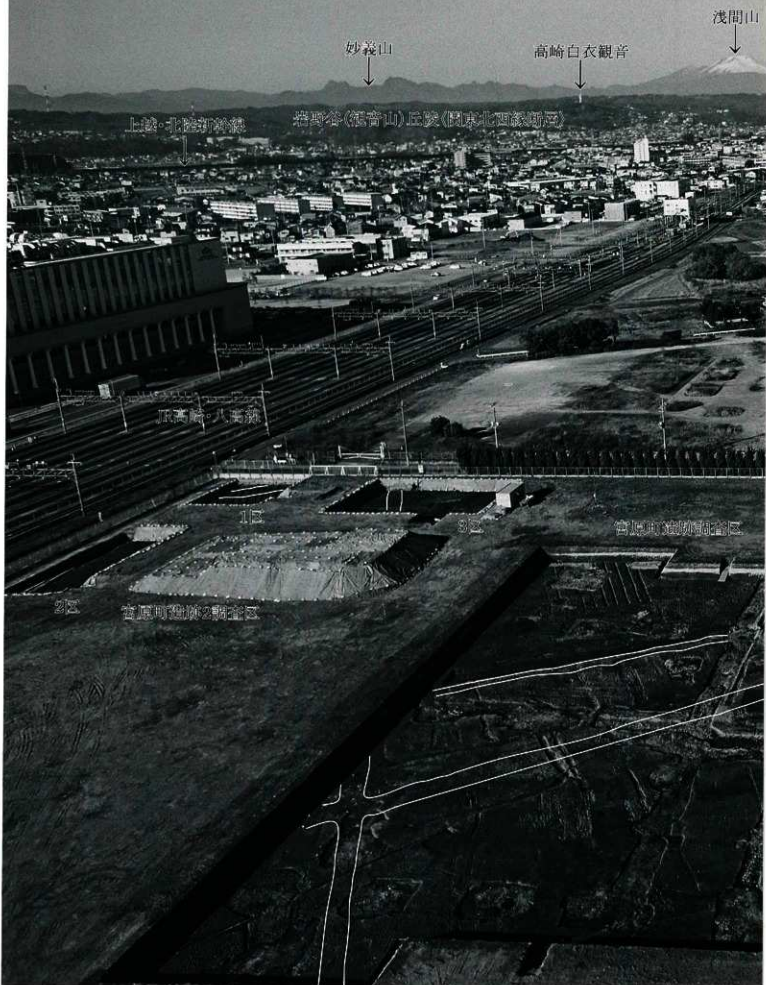
参考文献

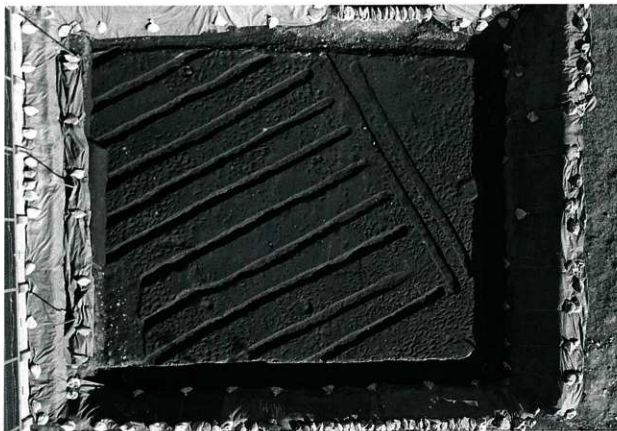
- 文化庁文化財部記念物調査課「発掘調査のびき」—各館遺跡調査編—
—同成社 2013
- かみつれの里博物館「1108 浅間山噴火・中世への助動」2004
野島 賢「群馬県史」浅間山噴火2 原稿古代 2 1991
群馬県文化事業振興会「上野原村歴史」5 群馬県(2) 1980
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団「自然系遺跡(大山西地区)福島
考古遺跡」2000
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団「寄附中城遺跡」2000
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団「宿禰手3段川遺跡」2001
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団「下内町野原遺跡・下内川前田遺
跡」2001
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団「福島市平野跡・上福島遺跡」2002
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団「群馬の遺跡」第6巻 古代 上毛
新聞社 2004
(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団「自然災害と考古学」上毛新聞社
2015
(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団「下之宮中神遺跡」2015
群馬県立歴史博物館「くまの鉄道」2004
埼玉県立歴史博物館「中世中期—時代を変えた武士と民衆—
」2015
- 鳥取県教育庁古代文化センター「葛飾村大刀と後溝古墳—出雲・土
野・東海地域の比較研究—」2005
- 下之域村東遺跡調査会「下之域村東遺跡」埋蔵文化財発掘調査報告書
1983
- スナガワ環境都市
高崎市「高野町遺跡調査報告書」2016
高崎市「開化高野歴史」1973
高崎市「新編高崎市史」通史編1 原始古代 1987
高崎市「新編高崎市史」通史編2 中世 2000
高崎市「新編高崎市史」通史編3 近世 2004
高崎市「新編高崎市史」資料編2 原始古代Ⅱ 2000
高崎市教育委員会「百舌遺跡(IV)」1982
高崎市教育委員会「高野の文化財」1993
高崎市教育委員会「高野V遺跡」1998
高崎市教育委員会「下之域村前Ⅲ・倉賀野上新堀1遺跡」2001
高崎市教育委員会「倉賀野系Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・V遺跡」2001
高崎市教育委員会「山名伊勢塚古墳」2008
高崎市教育委員会「京目・不動西遺跡2」2015
藤岡市「藤岡市史」通史編 原始古代中世 2006
藤岡市観上の遺跡報告「武蔵野古墳群Ⅱ」2012
高崎市教育委員会「菅沼遺跡群(35)」2011
高崎市立図書館「高野松平家系図」第十二巻 永享堂 1998
青木利文「浅間山噴火の砂出しについて—天明3年の浅間山噴火
による降下層古吉野の一例—」『東国史論』
第25号 群馬考古学研究会 2011
- 新井 仁「群馬県埋蔵文化財調査事業団」『研究紀要』26
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2008
「宮古宮古製糸と共に関係—高野山遺跡」『産業遺跡を踏
ねる』(下) あまを社 1987
「横口石臼跡考」『立正大学文学部論叢』第79号 立正大
学文学部 1984
「第1号—紅と」『文』『浅間記』—女流俳人一紅の捉えたい浅間
山噴火—『群馬県立歴史博物館紀要』第25号 群馬県
立歴史博物館 2004
上野忠司「上野・切石石室小考」『考古学論究』第2号 立正大学
考古学会 1992
「新野系系図」『産業遺跡を訪ねる』(上) あまを社
1987
久保田二「緑火山南東麓の地質」『群馬県立自然史博物館研究報
告』15号 群馬県立自然史博物館 2011
- 久保田二
鈴木幸枝
中島正徳
宮沢公明
久保田明
- 「中里後園西上州における存在形態—倉賀野を中心とし
て—」『高崎市史研究』第5号 高崎市 1995
「武野武十郎の中世史」みやま文庫 1996
「終末期古墳埋葬施設の共通性と相違性—虚空蔵塚と蛇穴
山・安楽寺の比較検討—」『土と野の考古学』Ⅱ 群馬考
古学ネットワーク 2009
坂口 一「古墳時代における群つくり過程の復原—古墳時代後期・
権小区瀬水田の一例—」『研究紀要』16 (財)群馬県埋
蔵文化財調査事業団 1999
- 竹本 晃「金井氏評からみた物部系氏族の展開」『研究紀要』第19
巻 (公財)山名山古古代文化研究協会 2015
野澤 均「関東の戦国史」『考古学論究』第31号 立正大学考
古学会 2016
- 八賀 晋「衆里と技術」『講座日本技術の社会史』第6巻 上毛 日
本評論社 1984
「倉賀野の調査」『高崎市史編さんだより』第12号 高
崎市 1996
- 原田雅純「伴野三家と山部郡—考古資料からみた上野三神—」『高
崎市史研究』第11号 高崎市 1996
三浦茂三郎「群馬県における終末期古墳からみた律令制領域
の研究」『群馬県立歴史博物館紀要』第31号 群馬県立
歴史博物館 2011
- 森 浩一「互のみる高野の古代文化」『関東の考古学』学生社 1991
「律令政治期における田圃の研究—水田の二重構造の
支配と根拠—」『高崎市史研究』第1号 高崎市 1991
「長賢寺山頂」『東国史論』第20号 群馬考古学研究会
2005
- 吉澤 学



第9図 条里復原試案図

写真図版1 遺構：調査区俯瞰（東）





1区全景 (上が北)



1区全景 (北)



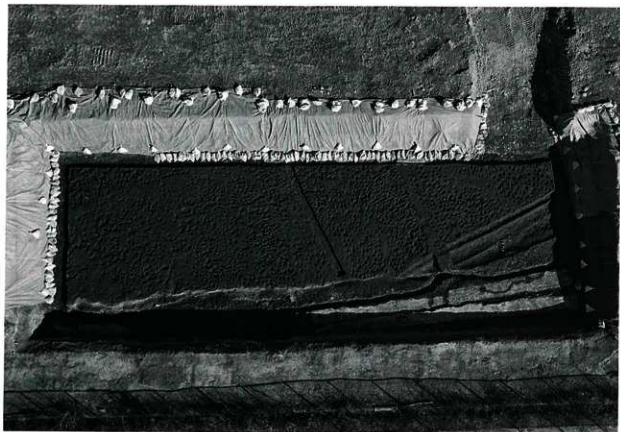
2号土坑全景 (東)



6号溝跡全景 (北)



1号大畦畔断ち割り・6号溝跡断面 (南)



2区全景（上が北）



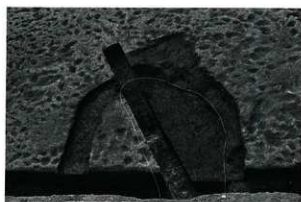
2区全景（東）



2区全景（西）



落ち込み検出位置の水田面（北）



落ち込み全景（北）

写真図版4 遺構：3区



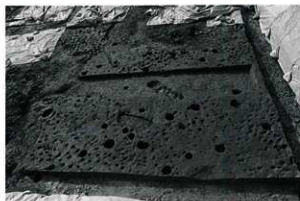
3区全景（上が東）



3区から宮原町遺跡調査区を俯瞰（西）



2号大畦畔全景（東）



ピット列群全景（北）



1号掘鉢状凹部全景（東）



3区東壁断面 (西)



3区東壁断面 (西)



3区東壁断面 (西)



3区東壁断面 (西)



2号大畦畔断ち割り断面 (南)



4号水口断ち割り断面 (南)



2号水口断ち割り断面 (東)



1号掘鉢状凹部断面 (北)

報告書抄録

ふりがな	みやはらまちせき2
書名	宮原町遺跡2
副書名	事務所建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書
シリーズ番号	第368集
編著者名	瀧澤典雄 山口慶太
編集機関	スナガ環境測設株式会社
所在地	〒371-0056 群馬県前橋市青柳町211番地1 TEL 027-234-7771
発行機関	高崎市教育委員会文化財保護課
所在地	〒370-8501 群馬県高崎市高松町35番地1 TEL 027-321-1292
発行年月日	西暦2016年(平成28年)3月24日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード番号		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡					
みやはらまちせき2 宮原町遺跡	群馬県 高崎市 宮原町2番11	10202	662	36°18'19"	139°02'13"	20151116 ～ 20160115	650㎡	事務所 建設

ふりがな 所収遺跡	種別	時代	遺構	遺物	特記事項
みやはらまちせき2 宮原町遺跡	生産遺跡	古代 古代 古代 古代 古代～近世 近世	水田跡 12面 土坑 1基 ピット 33基 楕円状凹部 2基 溝跡 6条 復旧坑 14条		As-B テフラ下水田跡。

要約	<p>遺跡は天仁元年(西暦1108年)のAs-B テフラに埋没した古代の水田跡であり、倉賀野西条里と呼ばれる条里地割の一部と見られるものである。水田跡からは大畦畔や畦畔・水口・楕円状凹部・溝跡・土坑等を確認した。これまでの条里地割復原原因とは南北に51m、東西に19mずれる位置に坪境大畦畔が確認され、形態は半折型と見られ、坪境畦畔移動の可能性から時期的な変遷が考えられる。1号大畦畔は地山を掘り残して構築しているが、水田耕作土の下に並行して6号溝跡があり関係する可能性がある。全調査区の全面で耕作痕が見られ、3区ではAs-B テフラを踏み込んだと見られる土層が観察されることから休耕状態の水田跡と考えられる。楕円状凹部は2基を確認しており、性格は不明であるが汲水溝と関係する可能性がある。ピットは3区北西に列状に群在し、東西畦畔に並行するもので櫛架や櫛列等の可能性がある。復旧坑は2群多条で褐色色結實土を充填するものと、1条でAs-A テフラを充填する2タイプがある。</p>
----	---

高崎市文化財調査報告書 第368集

宮原町遺跡2

事務所建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2016年(平成28年)3月24日 印刷

2016年(平成28年)3月24日 発行

編集 スナガ環境測設株式会社

群馬県前橋市青柳町211番地1

発行 高崎市教育委員会文化財保護課

群馬県高崎市高松町35番地1

印刷 朝日印刷工業株式会社